

中国アニメ映画の歴史を塗り替えた話題作がついに日本上陸！
**アクセスブライト、『西遊記之大聖帰来（原題）』の
配給権など日本でのオールライツを獲得**

日本のアニメやゲームコンテンツの中国展開をサポートする株式会社アクセスブライト（本社：東京都港区、代表取締役社長：柏口之宏）は、『西遊記之大聖帰来（原題）』の日本市場における配給権はじめテレビ放映権、ビデオグラム化権、ビデオオンデマンド化権、マーチャンダイジング権を含むオールライツを獲得しました。

『西遊記之大聖帰来（原題）』は2015年7月に中国で公開され、アニメ映画としては異例の興行収入192億円^{※1}という記録を作り、その当時1位であった『カンフー・パンダ2』の115億円を大幅に超えて、中国アニメ映画歴代No.1ヒット作品となりました。

これまで中国でヒットしたアニメ映画といえば、ハリウッド作品や『STAND BY ME ドラえもん』など外国企業によるものがほとんどでした。『西遊記之大聖帰来（原題）』は中国の映画スタジオが8年の歳月をかけて製作した3Dアニメ映画で、その完成度の高さや壮大な世界観、等身大のヒーロー像がメインターゲットである子どもだけでなく、若者層をはじめとして幅広く支持を集め、当時のアニメ映画の歴代興行収入記録を塗り替え、“中国国産アニメの歴史を変えた作品”として確固たる評価を築いています。

『西遊記之大聖帰来（原題）』の日本での公開は、2017年春頃を予定しています。



※1：1人民元＝20円で計算。

当社は中国市場から日本のコンテンツ産業に寄与することを目指し、2011年9月より、『クレヨンしんちゃん』や『ハローキティ』、『ロボットガールズZ』などのスマートフォン向けゲームや『AKB0048』などの映像コンテンツといったIP・コンテンツの中国市場進出および現地での制作・配信の展開をしています。

『西遊記之大聖帰来（原題）』の日本市場でのオールライツ獲得により、これまでノウハウを蓄積してきた日本のIP・コンテンツの中国市場進出に加えて、中国コンテンツの日本市場展開という事業領域にも進出していくこととなります。本作品の日本展開を第一歩に、日本と中国、それぞれの市場を熟知したプロフェッショナル企業として、日中双方のコンテンツ市場活性化に貢献するとともに、コンテンツを通じた文化交流にも一層取り組んでまいります。

なお、『西遊記之大聖帰来（原題）』は、2016年3月18日～21日、TOHOシネマズ日本橋で開催される東京アニメアワードフェスティバル2016でコンペティション部門・長編アニメーションにノミネートされており、日本の映画ファンの皆様に一足早くご覧いただける機会となっております。上映スケジュールについては、東京アニメアワードフェスティバル2016公式サイト(<http://animefestival.jp/>)をご確認ください。

『西遊記之大聖帰来（原題）』

監督：田曉鵬（ティエン・シャオポン）

制作：北京燕城十月文化伝播有限公司

ストーリー：

天界で大暴れをしたことで釈迦の手により五行山に閉じ込められた孫悟空。月日は流れ、彼の存在はすでに伝説となっていた。そして現在妖怪に脅かされる長安の街では、孤児の江流児（こうりゅうじ）と托鉢僧の法明が互いに寄り添って暮らしており、少年は孫悟空に強く憧れを抱いていた。そんなある日、山妖が子供たちを連れ去ろうと長安の街を襲う。一人の少女を助けたことから山妖に追われてしまう江流児は、五行山へ逃げ込み、偶然にも孫悟空の封印を解くことに。自由になった孫悟空は花果山に戻ろうとするが、腕の封印がまだ解けておらず、江流児の恩もあるため、嫌々ながら長安の街までの護衛となる。途中、縁に導かれて八戒と玉龍にも出会うが、彼らも昔の英姿ではなくなっていた。妖王は少女を奪おうと宿屋で罾を仕掛けるが、悟空が神通力を失っていたため、簡単に少女をさらわれてしまうのだった。自信を無くし、少女を助けに行くことを渋る悟空に、江流児は自らの力で少女を救い出そうと決意する。皆既日食の日、妖王が懸空寺で子供たちを丹炉に入れるのを阻止するため、江流児は道場に入り込む。そして、最後の戦いが始まった！

■本リリースに関するお問い合わせ先■

株式会社アクセスブライト広報事務局（株式会社プラップジャパン内）担当：柏原・野口

TEL：03-4580-9153 E-mail：accessbright@ml.prap.co.jp